

COG2025 応募内容確認書

ID	21-14-1
自治体名	福井県越前市
自治体提示地域課題	防災DXによる事前防災の推進
チーム名	仁愛大学のむらボ
アイデア名	3×3×3 de 多安心パズル!!!
チーム属性	混成：市民と学生（ ）の混成チーム
チームメンバー数	6
代表者	小西 菜穂
メンバー（公開）	小西 菜穂, 中村 そら, 渡邊 慧士, 森田 秋馬, 富永 良史, 野村 卓正

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

アイデア提案書

【基本情報】

チーム名：仁愛大学のむらボ

アイデア名：3×3×3 de 多安心パズル!!!

該当する自治体名：福井県越前市 (ID19)

自治体提示の地域課題：防災DXによる事前防災の推進

●What (何を) : 具体的なサービス・活動、新規性

➡「災害時でも健康を守る災害食備蓄」を実現することで、
災害時の**心理的安心**と地域全体の**備蓄力**を強化する。

●Who (誰が) : 実施者・組織 Who (誰に) : 対象者・受益者 (主体的関与も含む)

➡実施者: 栄養学生 (野村ゼミ) × プログラマー × 行政及び民間業者が

➡受益者: 越前市民に対して

●When (いつ) : 実施時期・頻度

➡2025年 7~8月 要件定義・必要機能の検討
ユーザーペルソナの設定

9~10月 優先して実装する機能の選定

11~12月 UI/UX 設計・開発

2026年 1月 α版テスト開始

2月 引継ぎ項目の選定 (新3年生に)

3月 越前市地域貢献活動支援補助金 報告会

●Where (どこで) : 場所・対象地域

➡越前市

●How (どのように) : 方法・アプローチ

➡市民が“迷わず・ムリなく・健康的に”続けられる災害食備蓄を支援できるような
防災食管理アプリを開発する

おおあんしん

➡**多安心パズル**の活用により防災意識を高め、心の余裕をつくる

1. アイデアの全体像 (What)

1-1. 提案するアイデアのあらまし

★3食×3日×3色の「多安心パズル」機能で健康を守る「備蓄の質」を強化して
「心の余裕をつくる」災害食備蓄管理アプリの開発 ★

栄養学的知見(大学) × 地域事業者 × 行政 の産官学協働で、
市民が“迷わず・ムリなく・健康的に”続けられる**災害食管理用アプリ**の開発・広報を行い、
地域全体の備蓄力を強靱化し、災害時の連帯と心理的安心を強化する。

1-2. ユーザー課題と提案する価値

☆本企画の技術的独自性・新規性 (ユーザー課題→解決案):

①ユーザー課題: なにをどれくらい備蓄しておけばいいのかわからない

➡現在、流通している主要な市販災害食(約150種)の**データベース**に連動

➡AIがデータベース内の食品成分データを参照して、ユーザー世帯の家族構成に
栄養学的に最適化された市販災害食の組合せを提案

➡3~7日備蓄分の**多安心パズル(画像1)**として視覚化【**自助**】
(ユーザーの嗜好に合わせたカスタマイズも可能 ➡例)

例: 家族構成、アレルギーの有無、嚥下障害レベル、持病の有無、予算設定など

②ユーザー課題: 在庫管理/賞味期限管理が大変で継続できない

➡アプリで在庫管理の一元化/視覚化(画像1)

入庫登録→賞味期限管理→消費/出庫登録(抹消登録)→補充発注【**自助**】

③ユーザー課題: 後何日分残っているのか不安で、食べるのを控えてしまう

➡災害時に食べる順番や組合せの再提案(AI) ➡災害避難時の残食数管理【**自助**】

(画像1. 多安心パズルのイメージ図)



栄養学科の強みを活かした UI/UX

3食×3日×3色 de 多安心パズル!!!

3食(朝食、昼食、夕食)×3日分=9食

それぞれの栄養バランスを

黄色: 主食(エネルギーをつくる)

赤色: 主菜(筋肉をつくる たんぱく質)

緑色: 副菜・汁物(食物繊維・ビタミン・ミ

ネラル)

で視覚化!

●なにが不足しているかパッと見てわかる!

●パズルを埋めれば必要な栄養が整う!

●操作が簡単で誰でも継続できる!

➡「量の備蓄」から健康を守る「質の備蓄」へ!!!

1.3 仕組みと地域連携：自助から共助、そして公助へ

①フェイズⅠ：家庭の健康を守る備蓄最適化【自助】（栄養学 × DX技術）

- ・栄養学科監修の「ヘルシー備蓄アルゴリズム」
- ・家族の健康状態に合わせたパーソナライズ備蓄を実現

②フェイズⅡ：地域店舗との連携【共助】（地域連携 × DX技術）

- ・アプリから地域のドラッグストア・スーパーへ発注
- ・地域一括発注でコスト低減・店舗の売上向上
- ・健康配慮型災害食の流通が活性化

③フェイズⅢ：市による備蓄情報の把握【公助】（行政効率化 × DX技術）

- ・家庭備蓄データ（個人が特定されない形）の集計
- ・災害時の栄養支援計画の合理化
- ・自治体備蓄のリスク分散

1.4 この防災アプリを使うことで得られるメリット：「究極の分散配置」を実現

【自助】 各家庭で3日分の防災食を備蓄することで心の余裕ができる。

【共助】 備蓄し心の余裕が増えることで緊急時に助け合いの機会が多くなる。

【公助】 各家庭で分散配置をすることで自治体の備蓄を補完し、リスク分散できる。

（画像2. 心の余裕をプロデュースする）



●安心を提供する② ～安全・安心の在庫管理～【自助】

しかし、「何をどのくらい買ったらいいかかわからない」というユーザーの課題は解決されていません。そこで、2025年度は構築したデータベースを参照して災害食を簡単に発注・備蓄計画・管理できるアプリの開発を行うことにしました。このアプリを使うことによって、「どの市販災害食を、どういう組み合わせで、どれだけ購入したらいいのか」を管理栄養士養成課程の学生の視点から学んできたことを活かして提案し、長期避難時にもバランスよく栄養が摂れて、災害関連死を予防できる災害食備蓄を実現できます。さらに、入庫や出庫の在庫管理も手軽にできるようになります。これらのアプリ機能によって、健康上の安全や心の余裕を提供したいと考えています(フェイズⅠ)。

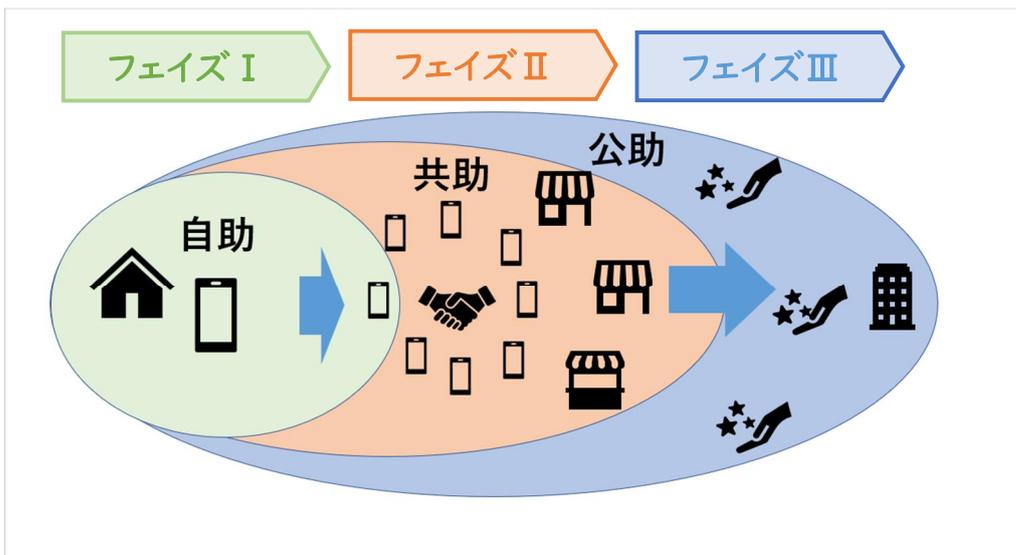
☆避難所に行く時間がなく在宅避難が増えたことから、国(政府)も各家庭における3~7日分の備蓄(自助)を推奨しています。

●安心を提供する③～調達ネットワークの構築～【共助】

とはいえ、現状、市販災害食は需要が少ないため単価が高く、災害食を常設で販売している店舗も少ないです。また、通信販売で発注する場合も必要のない商品とのセット販売が多いです。そこで、地域単位でまとめてメーカーに発注できるよう市内各地区で中核となる地元販売店等で集約して一括発注し、販売店から各家庭に配送する仕組みを構築するとよいのではと考えました。➡地区内共助体制の構築(フェイズⅡ)

このように、強固な自助・共助体制を構築することで、自治体による公助の負担を軽減できます。

(画像 4.災害食管理アプリを活用した自助・共助・公助の視覚モデル)



3. 実現までの流れ(How)

3.1 「究極の分散配置」実現までのロードマップとプロセス

フェイズⅠ: アプリ開発・実装

①データベース構築→②要件定義→③ユーザーペルソナの設定→④機能の選定→
⑤設計・開発→⑥α版テスト→⑦引継ぎ項目の選定→⑧修正・改善→

フェイズⅡ: 地元モデル地区でのアプリ社会実験で効果検証(2026年~)

⑨β版テスト→⑩再テスト→⑪普及ルート(販売店)の開拓
⑫市として広報・普及補助(モデル地区を選定して広報キャンペーン)
⑬各家庭でアプリをダウンロード →家族の分一括で管理可能(分散配置)

フェイズⅢ: 普及地域の拡大(社会実装)(2027年~)

⑭データを集約することで地域全体での備蓄状況を把握・分析(備蓄管理の簡便化)
⑮対象地域を拡大 →利用者が増加して、さらに災害食の分散配置管理が地域標準に

3.2 実現する主体

- ・仁愛大学人間生活学部健康栄養学科 野村ゼミ
- ・越前市
- ・民間事業者

3.3 資源(必要資源)と調達方法

●人(必要人材・スキルと確保方法)

- ・必要人材:野村ゼミ(仁愛大学健康栄養学科3年3名/4年7名)
 - 森田秋馬氏(フリープログラマー/越前市民)
 - 乙部美咲氏(フリープログラマー/越前市民)
 - 富永良史氏(ファシリテーター/越前市民)
 - 越前市役所職員(防災危機管理課/市民協働課)
- ・スキル :森田秋馬氏および乙部美咲氏によるプログラミングの技術的指導
富永良史氏によるコミュニティ・ファシリテーション指導
地元ドラッグストア等での普及・販促協力の交渉(越前市役所)
- ・確保方法:2026年以降も野村ゼミ新3年生に引継ぎ継続していく
2026年以降も継続してプログラミング技術指導を依頼予定
アプリ普及のための提携交渉

●物(必要機材・設備・場所と調達方法)

- ・場所と調達法:仁愛大学駅前サテライト(まちなかBASE)

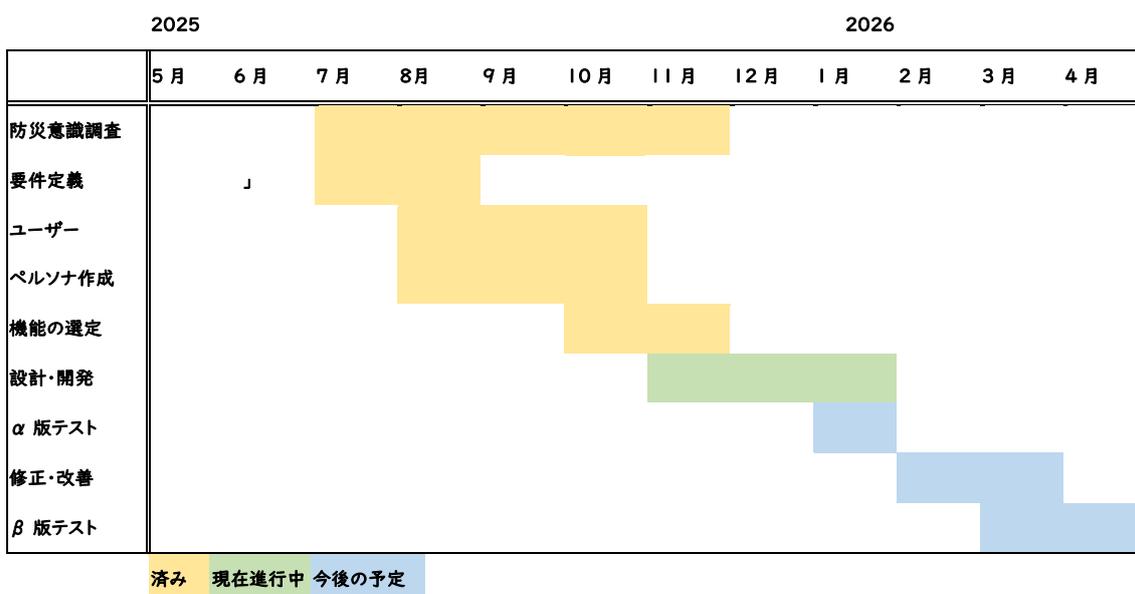
●金(資金規模と調達方法(補助金・寄付・収益など))

- ・資金規模:15万円(地域貢献活動支援補助金10万円+ゼミ費5万円)
- ・調達法(補助金・寄付・収益):地域貢献活動支援補助金10万円及びゼミ費用5万円

3.4 2025年スケジュール(フェイズI)

2025	7月7日	①越前市地域貢献活動支援補助金 公開審査会
	7月9日	仁愛大公開講座
	7月26日	坂井市出張講座(災害食紹介)
	7~8月	②要件定義・必要機能の検討 ③ユーザーペルソナの設定
	8月31日	岡本地区防災訓練(災害食展示)
	9月17日	オープンキャンパス(災害食展示+アンケート調査)
	9~10月	④α版に搭載する機能の選定
	10月19日	白山地区防災訓練(災害食展示)
	10月26~27日	大学祭(災害食展示+アンケート調査)
	11~12月	⑤UI設計・開発
	11月9日	妙法寺地区防災講習会
	12月20日	COG25 応募申請
2026	1月	⑥α版テスト開始
	2月	⑦引継ぎ項目の選定(新3年生に)
	2月18日	仁愛大学公開講座
	3月	⑧越前市地域貢献活動支援補助金 報告会
	4月~	毎年継続可能 データベースの更新 →β版リリース

(画像 5. 現在の進行状況と今後の予定)



制度的制約がある場合の対応策:特になし